

不登校問題に思う



教育相談には今年度も、お子さんの登校渋りや不登校に悩む保護者の方からの相談が多く寄せられました。

原因や経過はどうあれ、どんな場合でも不登校は、その子にとって、学校が「安心して、安全で、楽しい」場所できなくなっているから、学校に行くことができなくなっているということを忘れてはいけません。

「安心して安全」というのは文字通り、心身における苦痛や攻撃がないことですが、「楽しい」は甘やかしや媚ではなく、人々とのかかわりや体験を通して、課題解決や、葛藤や問題を乗り越えることで学び、自己肯定感や自己有用感、達成感や、成長を感じられるということだと思います。

それは家庭においても同様です。保護者の方とお話するときに、このことを最初にお話しさせていただいています。そして、子どもにとって、家庭も学校も社会も「安心して安全で楽しい場所」であるために、子どもとともに、まずできることを見つけ、一つずつ取り組んでもらいます。

できることが見つかれば、効果が実感できるようになると保護者の方が落ち着いてきて、それと同時に子どもも落ち着いて自分のことを考えられるようになってきます。学校が同様の対応をしてくれていると、登校再開につながります。

時間はかかっても、そうやってアイデンティティが確立されていけば、将来にわたって「生きる力」がより育っていくと思っています。「生きる力」が育っていけば、どんな問題でも自分の力で立ち向かい、乗り越えていけるからです。

不登校は確かに苦しい出来事ですが、子どもが自分の人生において、ちゃんと「自分」を生きたいと発しているサインなのではないかと思っています。大人はそれを受け止めて、その子だけでなく、家庭が、家族のだれにとっても「安心して安全で楽しい」場所になっているか、学校が、そこに関わる誰にとっても、そのような場になっているか見直し、できることをやりながら変えていく機会にすることが不登校問題を解決する道なのではないでしょうか。